

住宅建築賞 入賞作品展 2014

7.11 金 ~ 8.8 金

[日曜・月曜・祝日休館]

10:00~18:00 [金曜日19:00まで]

AGC studio | 入場無料

住宅建築賞 入賞レセプション オープニングパーティー

2014.7.11 金

申込先着順 定員:100名 入場無料

入賞レセプション

16:30~18:20 AGC studio(2階)

オープニングパーティー

18:30~20:00 AGC studio(2階)

※入賞レセプションは審査委員による入賞作品講評、
および入賞者とのディスカッションになります。

住宅建築賞 審査委員

委員長：西沢立衛
委 員：妹島和世 / トム・ヘネガン /
林寛治 / 藤本壯介

協 賛

株式会社 建築資料研究社 日建学院
株式会社 総合資格

協 力

旭硝子 株式会社

後援予定

公益社団法人 日本建築士会連合会
一般社団法人 東京都建築士事務所協会
一般社団法人 日本建築学会 関東支部
公益社団法人 日本建築家協会 関東甲信越支部
日経アーキテクチュア

主 催

一般社団法人 東京建築士会

[申し込みお問合せ先]

東京都中央区晴海 1-8-12 オフィスター Z 横 4F
tel.03-3536-7711 fax.03-3536-7712
e-mail.info@tokyokenchikushikai.or.jp
www.tokyokenchikushikai.or.jp

HELLO

AGC studio



〒104-0031 東京都中央区京橋2-5-18 京橋創生館1・2階
tel.03-5524-5511 www.agcstudio.jp

TOKYO SOCIETY OF ARCHITECTS & BUILDING ENGINEERS PRESENTS

住宅建築賞 入賞作品展

RESIDENTIAL ARCHITECTURE PRIZE
2014

| 主催 | 一般社団法人 東京建築士会



住宅建築賞 入賞者

- 安原 幹
日野 雅司
柄澤 麻利
- 田辺 雄之
- 西久保 毅人
- 木島 千嘉
上原 純子
- 岸本 和彦

住宅建築賞 入賞作品

2014年 | 一般社団法人 東京建築士会

応募主旨 [委員長 西沢 立衛]

【新しい時代の住宅】

住宅は、私たちの生活にとってもっとも身近な空間の一つです。そこには、私たちが生きる上での価値観が色濃く表れます。価値観とは、何を重んじて何を重んじないか、ということです。具体的なことでは、洋室より和室がいいとか、もしくはひとりで暮らすことよりも友人と暮らすのがいいとか、またはこういう地域にすむのがいいとか、そういういろんなことです。住宅には、「生きる上でこれが重要だ」という私たちの価値観が空間的に表明されます。どう調理するか、どう風を入れるか、どんな構造体か、どんな窓か、どんな庭か、それらはどれも、私たちの考え方、価値観というものが建築化したものです。そのような意味でも、新しい人々が新しい時代の住宅創造に挑戦すれば、そこには必ず、新しい人々の価値観、新しい時代の息吹のようなものが感じられる、瑞々しい提案となるのではないかでしょうか。なにが快適かとか、何が要らないとか、何が美しいかとか、そういういろんなことが渾然一体となって住まいとなり、生き方となって、新しい時代を切り開く新しい精神を世に示してゆくのではないかでしょうか。

応募要項

(1) 上記の主旨にかなうもの／(2)一戸建住宅、集合住宅及び併用住宅等とする(大幅な増改築、公共の建築も含む)／(3)原則として作品は最近3年以内に竣工したもの／(4)雑誌等に発表したものでもよい／(5)建築物の所在地は東京圏とする／(6)応募の点数は自由とする／(7)審査委員の関与した作品は応募できない

応募要件

応募資格
応募作品を設計した建築士
(法人組織の場合は設計担当した建築士)
登録料 本会 正会員:無料(申込時に入会した方を含む)
他県 建築士会 正会員:1点につき5,000円
会員外:1点につき10,000円
(作品を郵送する場合、登録料は現金書留にてお送りください)

提出期限

2014年1月24日(金)
(郵送の場合は、1月24日(金)の消印があり審査に間に合うよう到着したものには有効)

提出先

一般社団法人東京建築士会 住宅建築賞係
〒104-6204 中央区晴海1-8-12オフィスタワーZ棟4階
TEL 03-3536-7711

提出資料

申込書及び本会指定A2版台紙
図面及び完成写真数点(内・外観)、平面図、立面図、断面図、配置図、設計主旨(300字以内)等をA2版台紙一面(本会指定の用紙・原則として縦づかい、パネル化しない)におさめること。なお、写真の大きさ、図面等の縮尺及びレイアウトは自由とする。プレゼンテーションの表現自体は、審査の対象としない。
〔申込書及び本会指定A2版台紙は本会事務局において頒布します。郵送希望の場合は、宅配便着払いにてお送りできます。その場合、氏名、送付先、連絡先、会員番号等を明記のうえ、FAX(03-3536-7712)にてご請求ください。なお、事務処理の迅速化を図るため、宅配便着払い了承の旨お書き添えください。〕

審査委員

委員長

西沢立衛

委員

妹島和世／トム・ヘネガン／林寛治／藤本壯介

審査

- 1 | 第1次審査(書類審査)に通過したものは原則として現地審査する。
2 | 入賞発表 2014年4月中旬
・審査結果については、応募者に直接通知する
・応募者は審査結果について異議を申し立てることができない

表彰及び賞金

- 1 | 入賞者(5点以内)に対し賞状(盾)及び賞金を贈り、入賞者の中から特に優れたものには金賞を贈る。
[住宅建築賞 70,000円] [住宅建築賞金賞 150,000円]
2 | 建築主、施工者には入賞を記念する盾を贈呈する。
3 | 表彰式:総会の席上(6月上旬予定)

応募図面の取扱い

- 1 | 応募図面の公表及び出版の権利は主催者が保有する。
2 | 入賞作品は本会ホームページ及び会報等に掲載する。また、入賞作品展(公開展示・7月開催)の予定がある。
3 | 入賞作のうち、東京都内に建築されたものの中から1点を「関東甲信越建築士会ブロック会」の優良建築物表彰作候補作品として、推薦することがある。
4 | 応募作品は返却しない。

審査結果 (2014年 住宅建築賞)

応募点数 69点 住宅建築賞入賞 5点

住宅建築賞 (受付順)	西麻布の集合住宅 (東京都)	○設計者: 安原幹十/野雅司+柄澤麻利(SALHAUS) ○建築主: 匿名希望 ○施工者: 青木工務店(建物構造:RC造一部鉄骨造)
	Armadillo／アルマジロ (神奈川県)	○設計者: 田辺雄之(田辺雄之一級建築士事務所) ○建築主: 匿名希望 ○施工者: 川口建築 有限会社(建物構造:木造)
	森をよけた住まい (東京都)	○設計者: 西久保毅人(一級建築士事務所ニコ設計室) ○建築主: 飯島寛 ○施工者: 有限会社 大原工務所(建物構造:木造)
	重ねの家 (千葉県)	○設計者: 木島千嘉十/上原絢子(木島千嘉建築設計事務所) ○建築主: 匿名希望 ○施工者: 桦住建(建物構造:木造)
	House - H (東京都)	○設計者: 岸本和彦(acaa) ○建築主: 平野大樹 ○施工者: 株式会社 山菱工務店(建物構造:木造)

参考資料

1次審査結果 2014年2月3日(月)実施。応募作品69点より、1人5点～6点を投票(審査委員5名)

投票した作品番号

審査委員	作品番号						合計
西 沢	22	45	54	61	62	69	6点
妹 島	16	18	26	43	45	61	6点
ト ム	1	16	18	22	59	—	5点
林	12	15	60	61	63	—	5点
藤 本	1	26	53	62	63	64	6点

18 [22] 45 [61] 63 左記5点を1次審査通過とし、2次(現地)審査対象とした。2次(現地)審査は、3月8日(土)に実施した。

投票結果(下記18点より、議論)(計18点)

獲得票数	作品番号	合計
3票	61	1点
2票	1、16、18、22、26、45、62、63	8点
1票	12、15、43、53、54、59、60、64、69	9点



1次審査風景(上・下)

作品集講評
総評
▶ 西沢 立衛 ◀

本年は応募総数が69点で、そこから第1次審査で5点を選出して、現地審査というかたちで第2次審査を行った。その結果、5作品全てを入賞とした。落選、奨励賞、金賞はどれもなしとした。今回は応募総数が69点と、その数は決して多くなかったが、作品のレベルはおしなべて高く、例年に引けを取らない充実したものであった。1次審査も簡単ではなかったし、現地審査においても、がっかりしたというものはなかった。ちなみに、課題テーマは「新しい時代の住宅」というもので、なかなか難しい課題だ。僕自身、いつも考えている問題ではあるのだが、といつてこれといった明快な答えがあるわけではないよう問題である。今回の応募作はどれも実力伯仲で、どれかひとつが飛び抜けて優れているというわけではなく、金賞を確定するには至らなかつたが、ただそれはもしかしたら、課題である新しい時代の息

吹というものを、僕がまだ明快に探し出せていないことの裏返しであるかもしれない。
その中でも「重ねの家」は、僕個人としてはもっと印象に残った建築である。「新しさ」とか「新しい時代」という意味では、この点が新しいと具体的に指摘できるタイプの住宅ではないと思うが、架構全体がダイナミックで、作家が理屈なしにものづくりに向かう伸びやかさを感じた。「西麻布の集合住宅」は、都会の複雑な条件の中で、その複雑さを感じさせない透明感と開放感、爽やかさをもつ集合住宅で、やはりたいへんな実力というものを感じた。「森をよけた住まい」は、10坪という驚きの小さな住宅で、しかし土地と建築の小ささが、そのままダイレクトに住まいの豊かさとなっている。また、建築の魅力と環境の魅力とが調和している点も印象的だ。この家に住むことの喜びとこの土地に住む喜びとが自然に一体化しているのが、素晴らしく感じられた。「House-H」は、決して大きくなかった旗竿状地に、静かな住まいを中庭とステップによって実現した。開放感はないが、幅の狭さを逆に利用して、隠れ家的な快適を作り出した。「アルマジロ」は、鎌倉の崖地の麓に立つ小さな離れのプロジェクトで、母屋の庭に立つということで、たいへんな小さながらそれがハンディとならない、大変かわいらしく離れていた。

全体の印象としては、設計のレベルが非常に高く、また精密で、職業的であり、かつ誠実さを感じる。新しい時代の息吹を感じさせる荒々しさよりもむしろ、現在の困難や課題、条件に対して確かな答えを出すという、その等身大の謙虚な姿勢と、設計能力の高さということが、もっとも印象に残る審査だった。

作品 西麻布の集合住宅

設計者 安原幹 + 日野雅司 + 栃澤麻利 (SALHAUS)

[講評者]

西沢 立衛

10戸の賃貸住戸とオーナー住戸からなる集合住宅で、大きなビル群と古くからある住宅群とに挟まれたような、都会のただ中に立地する。実際に訪れてみて、難しい条件の中で、たいへん明るく開放的な、洗練された集合住宅が実現されていると感じた。昨今のワンルームマンションのような、閉鎖的・刑務所的な住戸群の集合とは決定的に異なる、関係性への期待といえばいいだろうか、住戸同士・ご近所同士の関係性の発展を期待する建築だ。一種のタイポロジー的な提案を目指した点も素晴らしい、ただの個別解にとどまらない、都心における賃貸集合住宅全般への一般解を提示しようという意欲が感じられた。商業的な集合住宅プロジェクトのビジネスモデルにも乗りうるようなスマートさ、四角さを多少感じなくもなかったが、しかし建築全体として、ある初々しさ、瑞々しさがあって、それが大きな魅力となっている。爽やかで溌剌とした若者の建築だと思う。



作品 Armadillo / アルマジロ

設計者 田辺雄之 (田辺雄之一級建築士事務所)

[講評者]

トム・ヘネガン

This tiny house has only two rooms – one on each of its two levels – but it provides its occupants with fascinatingly complex spatial experiences, and allows many different ways of use. The lower floor is a low-ceilinged ‘living room’ space with windows on all sides giving views horizontally to the surrounding gardens. The upper-level is a much wider and much taller space, with a large window linking the room to a small terrace and giving views vertically to the sky. The ‘diamond-shape’ plan distorts the sense of scale – people enter the house at the point of the diamond’s long-axis, from where the room appears much larger than its tiny floor area. The main room can seat a maximum of 3 or 4 people, but when the weather is good the windows can all be opened and people can also sit on the ‘en-gawa’ that runs around the outside of the walls, sheltered from the sun by the deep roof-eaves. The whole of the outside of the house then becomes ‘a piece of garden furniture’. The en-gawa and wide eaves refer to traditional Japanese architecture, but the geometry and its materials of the house are abstract and contemporary. It is a complex and intelligently-designed house, of great inventiveness and beauty.



この小さな家には、1、2階の二部屋だけしかない。しかし、興味深く多様な空間体験を好み手に与え、様々な使い方を可能としている。1階は、天井の低いリビングで、すべての窓から周りの庭への眺めがある。2階は、より広く天井も高く、部屋と小さなテラスをつないでいる大きな窓からは、空へと視線が抜けていく。ダイアモンド型の平面形がスケール感を狂わせるからだろうか、長手方向から家に入ると、その小さな床面積よりもずっと広く感じる。リビングは、3~4人程度がやっと座れる広さだが、天気が良い日には全ての掃出し窓を開けて、深い軒下の縁側にも座ることができる。このとき、縁側は「庭のベンチ」となる。縁側や深い軒は日本建築を参照しているが、この家の幾何学形態と素材感は、抽象的で現代性をもっている。複合的で、知的にデザインされた、革新性と美をもつ住宅である。

作品 森をよけた住まい

設計者 西久保毅人 (一級建築士事務所ニコ設計室)

[講評者]

妹島 和世

とても小さな住宅です。とても小さいのにとても快適そうな住宅でした。1階は、小さい住宅なのに大きなキッチンがおかれ、だから多分、住宅のリアリティが生まれてきて、2階はベッドでつまり、そのまま自然に屋上庭園まで導かれます。ベッドの奥に小さなバスルームがあり、そこに大きなバスタブが置かれています。これまた小さな屋上の庭は、腰の高さまで、屋根に囲まれていて、屋上だけすごく行きやすく、リラックスできる場所になってます。建ち方も、小さい敷地なのに、そこからさらに、道空間にスペースを提供し、その結果、小さいことを忘れさせるような、エレガントな建ち方を実現し、周りの環境を楽しめる住宅を作り上げています。普通、小さい建築になると、いろいろなところが小さくなってしまう、でも最後の最後で、住宅機器が小さくならないから、何か全体が壊れてしまうと思っていたのですが、そんなことはないということがわかりました。この住宅では、生活空間と住むための器具とか家具とかがほとんど同じ大きさになって新しい住宅像を作っていると思いました。とてもいい住宅だと思いましたが、あまりにじょうずにまとめられているとも思いました。敷地が大きくなった場合、西久保さんはどんな住宅を作られるのかなと思いました。



作品 重ねの家

設計者 木島千嘉 + 上原絢子 (木島千嘉建築設計事務所)

[講評者]

林 寛治

反時計回りの2つの渦巻き動線でプランの意図が解決されている。大きな渦巻きは生活機能を、玄関から手前の音楽スタジオに直接導かれる小さな渦巻きで公私を明快に分けている。敷地の高低差を利用して、車寄せを得るために1.8mほど掘り下げられたアプローチの少し広めに取られた入り口階段は、高低差も加わってパースペクティブに生活機能スペースに向かって直進しており、母屋との間の庭へ視線をうまく導いている。演奏家自身と合奏、室内楽演奏の仲間たちの練習スペースが起点となって、建築の形が不等辺五角形になったという必然は自然体で面白いし、内部に注いだ緻密とも言える盛りだくさんの設計者の情熱も良しとする。勝手ながら、生活空間を情熱的な住まいと想像したが、完成後3年近くになるのに、すべてが完全に片付けられており、生活感が伝わってこないことに驚いた。内部に対し、外部正面プロフィリットガラスの光廊下も成功しているが、浮き上がったスラブの下に見えるメーター類がせっかくの顔を壊している。不等辺五角形と敷地との関係は、調和しているとはいえない。設計で意図した筈であるのに、細切れで出にくい庭や見ない庭など、車寄せも含めて単なる余地に見えてしまう点で問題が残ると感じた。



作品 House - H

設計者 岸本和彦 (acaa)

[講評者]

藤本 壮介

小さな旗竿敷地の奥に作られたこの住宅は、都市の過密な狭小地においてもなお、生活中に自然や庭を取り込んで豊かな住空間を実現する試みである。それほど幅の広くない敷地を大胆に縦に二つに割り、一方をメインの住居空間とし、もう一方を庭とする。居住空間は玄関から段々状にキッチンを経て奥のリビングまでが連続している。そしてそこから庭に向けて、小さいが快適なスケールの居場所が飛び出すように配置されている。段々状の空間の伸びやかさと、庭に飛び出したダイニングなどの居場所の小さなスケール感の対比が生活空間の多様性と豊かさを生み出している。細かなレベル差を活かしてさまざまな部屋を丁寧に収めていく細やかな工夫も生きている。庭の壁は黒く塗られ、竹を丁寧に配置することで、庭の小ささが逆に生きてくる作りとなっている。寝室、リビング、ダイニング、和室のそれぞれから見た同じ庭の印象がさまざまに異なっていることが、この家の構成が成功していることを物語っている。施主であるご夫婦が、とても自然な様子でキッチンの段差に腰掛けておられたのを見て、この家がしっかりと住まわれていることを実感できた。







住宅建築賞受賞者プロフィール

■ 西麻布の集合住宅



安原 幹

Motoaki Yasuhara

1972年：大阪府生まれ
1996年：東京大学工学部建築学科卒業
1998年：東京大学大学院工学系研究科建築学専攻修士課程修了
1998～2007年：山本理顕設計工場
2008年：SALHAUS共同設立
2011年～：東京理科大学准教授



日野 雅司

Masashi Hino

1973年：兵庫県生まれ
1996年：東京大学工学部建築学科卒業
1998年：東京大学大学院工学系研究科建築学専攻修士課程修了
1998～2005年：山本理顕設計工場
2007～2010年：横浜国立大学建築都市スクール“Y-GSA”設計助手
2008年：SALHAUS共同設立
現在：東京理科大学工学部、千葉大学工学部、武藏野美術大学、法政大学非常勤講師



柄澤 麻利

Mari Tochizawa

1974年：埼玉県生まれ
1997年：東京理科大学理工学部建築学科卒業
1999年：東京理科大学大学院理工学研究科建築学専攻修士課程修了
1999～2006年：山本理顕設計工場
2008年：SALHAUS共同設立
現在：東京理科大学工学部、昭和女子大学生活科学部非常勤講師

■ Armadillo／アルマジロ



田辺 雄之

Yuji Tanabe

1975年：神奈川県鎌倉市生まれ
1998年：明治学院大学文学部フランス文学科卒業
2000年：ICSカレッジオブアーツ卒業
2000年～2006年：bews/井坂幸恵建築設計事務所勤務
2003年：芝浦工業大学大学院工学研究科建設工学専攻修了
2006年～2007年：文化庁新進芸術家海外研修としてFOACに在籍
2007年～2008年：FOA勤務
2008年：田辺雄之建築設計事務所設立
2010年～2011年：目白大学短期大学部非常勤講師
現在：ICSカレッジオブアーツ非常勤講師

■ 森をよけた住まい



西久保毅人

Taketo Nishikubo

1973年：佐賀県生まれ
1995年：明治大学理工学部建築学科卒業
1997年：明治大学大学院理工学研究科修士課程修了
1997～1998年：象設計集団
1998～2000年：アトリエハル
2001年：ニコ設計室設立
現在：明治大学兼任講師

■ 重ねの家



木島 千嘉

Chika Kijima

1966年：東京都生まれ
1989年：早稲田大学理工学部建築学科卒業
1991年：東京工業大学大学院理工学研究科建築学専攻修士課程修了
1991～1999年：日建設計
1999年：O.F.D.A.参入
2001年：木島千嘉建築設計事務所設立

■ House - H



岸本 和彦

Kazuhiko Kishimoto

1983年：愛知県生まれ
2006年：名古屋市立大学芸術工学部生活環境デザイン学科卒業
2008年：東京工業大学大学院総合理工学研究科修士課程修了
2008年～：木島千嘉建築設計事務所+O.F.D.A.

1968年：鳥取県生まれ
1991年：東海大学工学部建築学科卒業
1998年：ATELIER CINQU設立
2007年：組織改名 acaa
2004～2014年：東海大学・東京デザイナー学院非常勤講師